

風の展示



図 1. 風船のダンス

の風の強いところへ引き込まれ、なかなか風の中から外へ出ないというわけです。

この性質はいろんなところで皆さんも経験されていると思います。筆者はよくサイクリングをしますが、トラックが通り過ぎるときの風にフラフラと引き込まれそうなのを感じます。プラットフォームで列車が通過するとき、列車の風に引き込まれたら大変です。「列車が通過します。危険ですので白線より内側でお待ち下さい。」というようなアナウンスはそのためのものでしょうね。

これまでの話が本当かどうかを「風のうらわざ」(図2)で確かめて下さい。パイプの上で扇風機の風が吹くと、パイプの中の紙風船がふわふわ浮き出します。



図 3. シュート

図1は扇風機で風を上向きに吹かせているだけの展示です。その風で風船がフワフワ浮かんでいます。風で風船がフワフワ浮くのは当たり前ですよね。でも、どこへも飛んでいかずに風の中に捕まったままですよ。風船をじっくり観察しましょう。風の中の方へ行きたいような動きをしています。じつは、風はものを吹き飛ばすだけではなく、「風の強い方へ引き込む」という力を持っています。ですから、風船は風のないところから扇風機



図 2. 風のうらわざ

風の強い方へ引き込む力を見せられますよ。

それでは、皆さんへの宿題です。「シュート」(図3)はビーチボールを風で浮かせます。風を斜めにしても飛んでいかずに、風の中で浮かびます。なぜでしょう？ これら3つの装置は展示場1階にあります。いろいろ観察しながら考えましょう。

斎藤吉彦・科学館学芸員